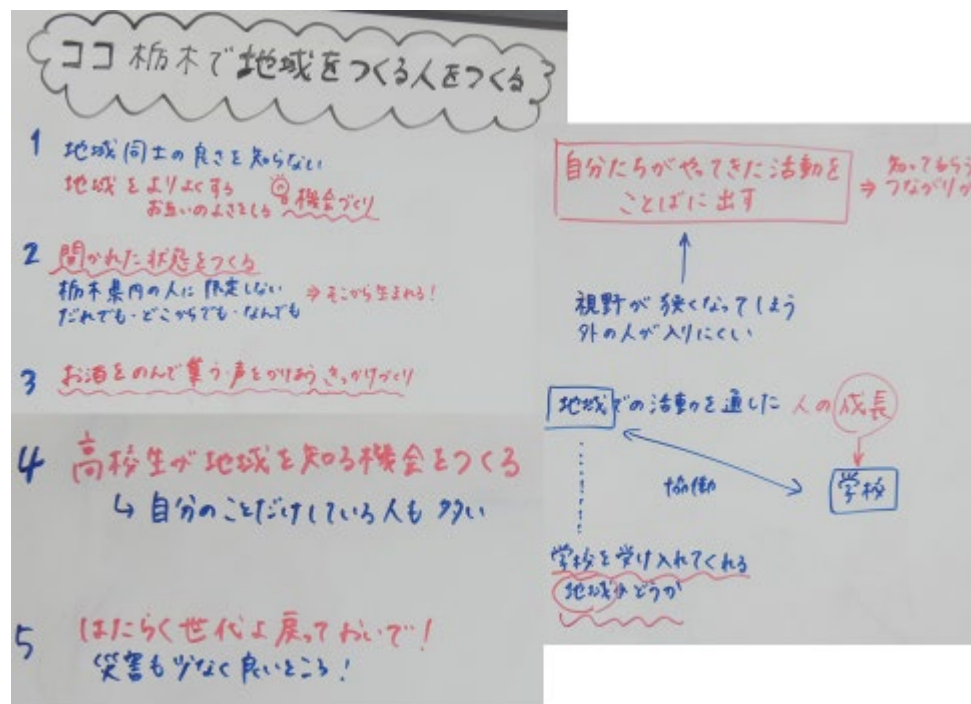


2019年度大学コンソーシアムとちぎ「大学を超えた共同研究支援事業」報告書

所 属 機 関 名	国立大学法人宇都宮大学共同教育学部
団体・グループ等名	住環境・まちづくり研究室
研究代表者名 (所属部署)	陣内 雄次 (宇都宮大学共同教育学部)
研究連携担当者名及び連絡先	和田佐英子 (宇都宮共和大学)
研究連携校名	宇都宮共和大学シティライフ学部
関連自治体・経済団体等名	栃木市教育委員会事務局生涯学習課、とちぎ高校生蔵部

1. 研究事業名	高校生のまちづくり参画を推進する事業構築 —SDGs 11の実現を目指して—
2. 実施年度	2019年～2020年
3. 研究成果等	(1) 本研究の目的 持続可能性は、経済、環境、文化などあらゆる分野で取り組まなければならないテーマである。2015年9月国連総会で新しい持続可能性に関するアジェンダが採択され、17の「持続可能な開発目標SDGs」(Sustainable Development Goals)と169項目のターゲットが示された。SDGsは、2016年から2030年までの15年間の国際目標であり、全ての人や企業・団体が取り組むべき目標として設定された。ここに、“栃木県内においてもSDGsをいかにして進めるのか”が問われており、2030年の目標年次に向けて積極的な取り組みが必要となっている。本研究では上記の背景に鑑み、SDGsの目標11「包括的で安全かつ強靱で持続可能な都市及び人間居住を実現する」を若者(特に高校生)が主体者となって進めるためのスキーム構築を探索することを目的に実施した。なぜなら、日々の生活空間であるまち環境を維持・改変・改良することは、大人への一歩を踏み出す準備段階にある高校生にとっても大切なテーマだからである。 (2) 本研究の成果 1) 県外先進事例の把握と分析 高校生の起業支援などを目指しているNPO法人みしまびと(静岡県三島市)の代表理事を迎え、セミナー「地域の未来をつくる人をつくる ―市民育ちと若者支援―」(2019年11月2日、宇都宮大学コミュニティフロア)を実施するとともに、参加者を対象にアンケート調査を実施した。意見交換(栃木で地域をつくる人をつくるには)では、<u>高校生が地域を知る機会をつくることの重要性</u>などが指摘された。 2) SDGsとまちづくりについて SDGsとまちづくりの関連について検討を深めるため、「SDGsとまちづくり」セミナーを実施した(2019年12月8日、宇都宮大学8号館「小会議室」)。その結果、<u>持続可能なまちづくりという観点から、まちづくりに参画できる「入口」「フック」を地域の中に多様につくることの重要性</u>などが指摘された。



写真－1 セミナー（2019年11月2日）での意見交換の結果

3) 県内動向の把握と分析

とちぎ高校生蔵部の総会にて、高校生によるSDGs 11に関するワークショップを実施した（2020年2月23日、小山高専サテライトキャンパス（栃木市））。具体的には、蔵部メンバーなどの高校生、蔵部OBOG、そして社会人の3グループで、「SDGs 11を高校生が進めるには」というテーマで検討した。その結果、蔵部メンバーなど高校生からは“SNSによる発信と共有・共感の重要性”、蔵部OBOGからは“OBOGが高校生に耳を傾けること”“高校生と共に成長しながらサポートすること”、社会人からは社会人による“高校生のための環境づくり”“高校生の活動を知り認識すること”の重要性が指摘された。

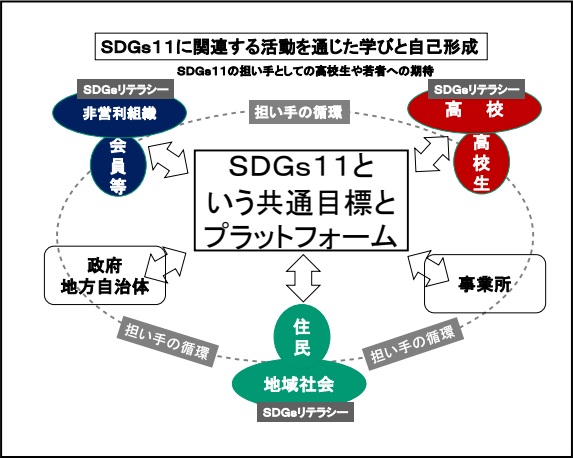


写真－2 ワークショップの様子

4) インタビュー調査の結果

2020年6月21日にミニシンポジウムを開催するため、準備を進めていたが新型コロナウイルス感染予防のため、中止とせざるを得なかった。そのため、2020年7月8日にとちぎ高校生蔵部顧問のI氏、とちぎ高校生蔵部の立ち上げ時から行政のキーパーソンとして関わってこられた栃木市教育委員会事務局生涯学習課のF氏へ、ZOOMによるインタビュー調査を実施した。テーマは、「高校生や若者がSDGs、まちづくりに取り組む上での大人の役割」である。以下に、重要な指摘事項を列挙する。

- ・高校生がまちづくりに継続して取り組めるようにしていくことが大人の役割の一つだし、まちづくりに参画できる機会をつくることも重要。
- ・若者の目線に立って考えることが大切。一緒に考える。たわいもない話をしな

	がら、素直に話せる環境をつくることも重要。 ・楽しく取り組み、気軽に参加できることが大切。 ・行政の事業は単発的なものが多く、若者へのフォローがないことが問題。行政の考え方を変えていくことも重要。 ・とちぎ高校生蔵部の顧問であるI氏（30歳代、男性）が、蔵部メンバーや蔵部OBOGのロールモデルになっている。大人のロールモデルの重要性。ロールモデルがいることが、高校生のモチベーションにつながっている。 ・高校生と大人をつなぐ、「お兄さん、お姉さん」的な存在が必要。大学生などは適任。 ・高校生や若者と「まち」はつながっていない。「まちづくり」と大上段に構えても高校生や若者には響かない。まずは、気の合う仲間の存在が必要。「この人と一緒に活動したい」「おしゃべりしたい」という人と人がつながるところから、徐々に「まち」へと関心が向かう。そのような場づくりも大人の役割。 5) アンケート調査の結果 ①高校生ワークショップ（有効回答数23）、②高校生合同文化祭（16）、③とちぎ高校生蔵部（14）、④U大学生（173）へ、SDGs認知度などに関するアンケート調査を実施した。SDGsの認知度は①、②、③ともに60%前後であったが、④は約10%であった。①、②、③は元々まちづくりなどに関心の高いグループであるため、高い認知度であったものと推察される。「SDGへの意見」（自由記述）に、「言葉だけでは伝わらない。具体例を示すことで関心を高めることが重要」「まちづくり活動が楽しいものであることを、体験を通して知ることが重要」という指摘があり、今後の実践において参考にすべきであろう。 6) 若者（特に高校生）によるSDGs11推進のためのスキーム案 以上の結果を受け、SDGsの目標11「包括的で安全かつ強靱で持続可能な都市及び人間居住を実現する」を若者（特に高校生）が主体者となって進めるためのスキーム案を提案する。高校生や若者、学校関係者、SDGs11に関連する非営利組織、自治会など地縁組織、地方自治体、民間企業（小規模店舗など含む）が一同に介するプラットフォームを構築し、フラットな関係性の中でSDGs11に関する意見交換を行いつつ、高校生や若者が楽しくやりがいをもち、主体的に参画できるプロジェクトを立ち上げる。大人は、高校生や若者の良き相談役であり伴走者としての役割を担う。そのプロセスを通じて、参画する全ての者がSDGsリテラシーを向上していくことも目指す 
4. 今後の課題及び発展性	① 教育現場へのアプローチ 2020 年度から本格実施となる新学習指導要領でSDGs達成の担い手づくりが取り上げられていることもあり、今後は学校との協働によるSDGs、まちづくりの推進を視野に入れていくことが重要である。 ② スキーム実践のためのプラットフォームづくり 本研究で構築できたスキームを実装していくため、関係者が繋がり自由に意見交換できるプラットフォーム構築が期待される。コロナ感染対策のため、当面はオンラインの可能性が高いが、まずはとちぎ高校生蔵部を中心に、プラットフォームの輪を拡げていくべきであろう。